

(別紙1)《会派用》

令和5年8月30日

狭山市議会議長
三浦 和也 様

会 派 名 公明党
代表者氏名 加賀谷 勉



視 察 報 告 書

このことについて、別紙のとおり、報告がありましたのでご報告いたします。



代表者 加賀谷 勉 様

視察者(代表)氏名 加賀谷 勉



視 察 報 告 書

このことについて、次のとおり報告します。

1 期 間 令和5年8月10日～令和5年8月10日
(但し前日8月9日に京都市での会派研修に参加のため1泊)

2 視 察 先

京都府 宇治市 宇治市役所/宇治市中央図書館

3 調 査 事 項

京都府 宇治市 「電子図書館」事業

4 視察参加人数 4 人

参加者は次のとおり

加賀谷勉、広山清志、船川秀子、関根弘樹

5 調 査 概 要

別添資料のとおり

京都府宇治市「電子図書館」の取り組みについて

令和5年8月30日
公明党狭山市議団

1. 視察の目的

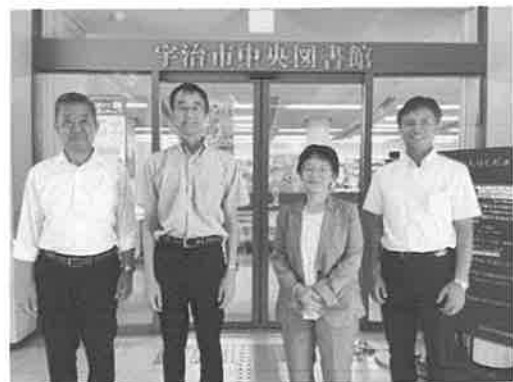
狭山市においても市立図書館のリニューアル検討が視野に入中、他市の図書館事業の事例も色々と調査、研究すべきと考える。

京都府宇治市は市立図書館として、他市に先駆け「電子図書館」を開設している。視察によって以下の事項等を把握し、今後の狭山市における新たな図書館事業の参考としたい。

- ① 「電子図書館」事業に取り組むことになったきっかけ
- ② 事業の内容
- ③ 市民の「電子図書館」使用状況
- ④ 市民からの反応（声）
- ⑤ 書籍図書館との共存について
- ⑥ 「電子図書館」事業のメリット
- ⑦ 「電子図書館」事業の課題
- ⑧ その他、今後の事業発展のために（もしあれば）

2. 視察の概要

視察日： 令和5年 8月10日（木）
視察先： 宇治市中央図書館
視察先担当者： 宇治市中央図書館館長 中田義人氏
日程： 9：30 宇治市役所訪問 宇治市議会の関谷智子副議長と懇談
10：00 宇治市中央図書館に移動
10：00～11：30 宇治市中央図書館館長の中田氏より説明を受ける



3. 視察の報告

(1) 宇治市市勢（令和5年4月1日現在）

人口 181,616 人
世帯数 85,286 世帯
面積 67.54 km²

(2) 宇治市の図書館の概要

・ 図書館は市内に3カ所（別紙地図を参照）

- ① 中央図書館 開館 昭和59年11月
所在地 折居台1丁目1番地（宇治文化センター内）
- ② 東宇治図書館 開館 平成4年11月
所在地 五ヶ庄三番割36番地の5（東宇治コミュニティセンター1階）
- ③ 西宇治図書館 開館 平成9年6月
所在地 小倉町山際63番地の1（西小倉地域福祉センター3階）

・ 上記3カ所の図書館とは別に予約配本所を市内7カ所に設置

- ① 木幡公民館
- ② 槇島コミュニティセンター
- ③ 南宇治コミュニティセンター
- ④ 開地域福祉センター
- ⑤ 京都文教大学図書館
- ⑥ 男女共同参画センター（ゆめりあ宇治内）
- ⑦ アクトパル宇治

・ 返却ポストは8ヶ所に設置

上記の配本所並びに市役所

・ 蔵書冊数： 324,131 冊（令和4年3月31日時点）

中央図書館：181,141 冊 東宇治図書館：64,551 冊
西宇治図書館：72,911 冊 団体分（地域で作った〇〇文庫等）：5,528 冊

・ 貸出点数： 605,820 点（令和3年度実績）

中央図書館：293,810 点 東宇治図書館：145,085 点
西宇治図書館：149,059 点 団体分 3,690 点 配本所：14,176 点

(3) 宇治市図書館の沿革

昭和 40 年 10 月	市民会館図書室として開室
昭和 41 年 8 月	図書の貸し出し開始
昭和 44 年 10 月	移動図書館「そよかぜ号」巡回開始
昭和 59 年 10 月	宇治文化センター会館（中央図書館等 4 館構成する複合施設）
昭和 59 年 11 月	宇治市中央図書館会館
平成 4 年 11 月	宇治市東宇治図書館会館
平成 9 年 6 月	宇治市西宇治図書館会館
平成 14 年 6 月	インターネット予約開始
平成 15 年 3 月	移動図書館「そよかぜ号」廃止
平成 15 年 4 月	予約図書配本サービス開始（現在 7 ヶ所）、祝日開館開始
平成 28 年 4 月	京都市図書館との相互利用開始 （両方の図書館のカードを作成すれば相互利用が可能に）
平成 29 年 4 月	中央図書館の開館時間を延長（平日 18 時まで） （土日祝、東宇治図書館、西宇治図書館は 9 時から 17 時まで）
令和 3 年 1 月	図書館外返却ポストを設置（現在 8 ヶ所）
令和 3 年 3 月	<u>宇治市電子図書館サービスを開始</u>
令和 4 年 3 月	第 2 次宇治市図書館事業計画策定（令和 4 年～7 年）
令和 4 年 6 月	視覚障がい者専用電子図書館サービス開始（全国初）
令和 4 年 7 月	<u>宇治市電子図書館学校連携事業を開始</u>

(4) 宇治市電子図書館の取り組みについて

⇒添付の資料を参照

(5) 主な質問と回答

Q. 電子図書館の導入には相当な経費が必要、とのことであったが、実際の初期費用は、どの程度かかったのか？

A. 宇治市ではシステムにオーバードライブ社のものを使用しているが、その場合で約1,000万円かかった。

また、運営管理費としては、月々5万円、年間で60万円かかっている。

Q. 電子図書館と実際の書籍図書館の両方を同一の職員で運営しているが、電子図書館の事業を始めたことで、職員の業務負担は増えたりしていないか？

A. 導入の検討段階では、調べること、検討することも多く、それなりに負荷はあった。ただし、開始後は、さほど大きな負担はない。

Q. 電子図書館の個別アカウントを利用して、各人の貸し出し履歴の管理や読書記録を作成できるような、いわゆる「マイページ」のような機能はあるのか？

A. 私 (=中田館長) も、4月からの着任であるため、まだ詳細を把握しきれておらず、そのような機能の有無については、この場でお答えできない。

ただ、システム上、借りた本が返却をされた時点で、利用者個人のIDと借りた本の情報記録は紐づけが切れることになっている (プライバシーの配慮)。

4. 視察を終えての所感

- ・電子図書館誕生の背景として、以下の点が挙げられていた。

「来館者と貸出点数の減少」「低調な図書館利用率」への危機意識、一方で「蔵書収蔵スペースの限界」も認識されていた。

そのような課題を抱えながら、図書館事業計画に掲げた「誰もが利用しやすい図書館」について検討を進める中、「読書人口の拡大が期待」でき、「デジタル化の対応」も進み、「蔵書収蔵スペースが不要」という電子図書館の特徴、機能が宇治市の現状課題にうまくマッチしたといえる。

一方で、中田館長が「(電子図書館事業が) 国のコロナ交付金の対象となったため、これを使った」とおっしゃっていたが、機を逃さず、導入を決定できたことが成功の要因といえる。

- ・当初は電子図書館の「登録者」「貸出点数」ともに伸び悩む中、ターニングポイントとなったのが、「電子図書館学校連携事業」であった。
市内の小中学生にはタブレット端末が1人1台配備されていたことで、これをうまく活用して電子図書館の登録者数を増やすことを思いついたという。
実際に、学校連携が始まってから、貸出点数が前年度比約15倍に増えている。
子どもたちが電子図書を活用する環境ができたことで、読書習慣のない小学生、中学生が本に触れるきっかけを得て、図書館利用者の裾野が広がった。
ただし、子どもたちが小学校、中学校を卒業した後も図書館を継続して利用してくれるかどうか、その評価をくだすには、もう少し時間を要するだろう。
- ・現時点では、電子図書館が書籍図書館を侵食してしまう、いわゆるカニバリの状況にはなっていないようである。書籍図書館と電子図書館のそれぞれの良さが認識され、相互利用が促進されれば図書館事業として理想の形と思われる。
- ・導入コストは決して安いとは言えないが、電子図書館事業の4つのメリットは魅力的であり、また現状では職員の方たちの負担が増えていないことも踏まえ、今後の狭山市の図書館事業の一つの方向性として検討に値すると思われる。

以上